

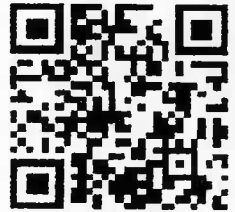
横浜市退職小学校長会



第68号

令和4年3月10日  
横浜市退職小学校長会  
会長 大久保 重則

ホームページアドレス



巻頭言

教育ボランティアを続けて

会長 大久保 重則

朝八時十五分、校門と昇降口の戸が開けられる。毎朝、当番の先生の仕事。待ち構えていた数人の生徒と「おはよう。」の挨拶を交わす。私は昇降口の前で。校門前では地区の会長さん（火・金）、校長、副校長と数人の先生が生徒を迎える。八時二十五分頃になると急に登校生徒が増え、昇降口は混雑でこった返す。八時三十分過ぎると、一目散に駆け込んで来る何人かがいる。昇降口にいる先生が、後一分と時間を告げると、とたんに猛スピードになる。生徒は八時三十五分まで、教室に入らないと遅刻になるのである。この光

景は雨が降ろうが雪が降ろうが関係ない。十二年間続くボランティアの日々である。

毎朝、弁当と飲み物を用意してくれる女房には感謝しながら、八時に家を出て、午後三時半の生徒下校まで一緒に教室で過ごす。

最近では家に帰ると疲れを感じるが、一夜明けると不思議に「学校だ。」と生徒の顔が目に見え、十八人の個別支援級の生徒と交わす会話が私を掻き立てる。「先生、その荷物、僕が持つよ。」透かさず飛んできてくれる男の子。小学校では味わえない毎日。

私は現在、主として一年

生から入学して来たMちゃんと一緒に勉強している。会話ができない。名前も書けない。文字、数字の読み書きも全くできない。しかし、明るく元気な子で傍から離れない。

三年目になって、数字の一から五、自分の名前をやっとひら仮名の中から見つけられるようになり、こちらから返す言葉にも応えられるようになった。涙が出る程、嬉しかった。

学校では個別支援級でも、各教科ごとに先生が代わる。先生方の個々の生徒への配慮がとてもしっかり届いている。Mちゃんも進学先が決まり一安心。やめようかなと思いつつ続けているボランティアである。

「ありがとう！」

内橋 英子

夫は、一昨年の年末に老衰のため九十一歳で亡くなった。十一月中頃だったろうか、寝ている夫の足が冷えていないか案じて足元に湯たんぽを入れた時、夫から思いがけない言葉をかけられた。「ありがとう！」それ以来、何をしてもらっても、ありがたうなんて言ったことのない夫からである。そのひと言を聞いた時、わたしの胸の中に広がった嬉しさ。今でも忘れられない。

小さき幸せ

伊藤 要次

なじみのカフェでコーヒーを飲みつつ短歌を詠む時が、私の至福のひと時です。重度の狭心症で一命を落としかけたこともありましたが、八十四歳になつた今、私は穏やかな日々を過ごしています。お金はありませんが、欲張らずありのままの自分を受け入れて、私は幸せを手にしました。「他愛なきことを語り夕餉食む妻と育む小さき幸せ」

山歩き大好き

山口 信三



「源氏物語」講師

久野 みどり

群馬県の山国育ちのためか山が好きで、よく山に登った。富士山、北アルプスを始め北は利尻岳、南は四国の石鎚・剣山まで数えてみると百名山を三十一座登った。古希にはエベレスト街道のトレッキング、翌年は中国の黄河源流域を探る旅などもした。その後家内の大病で、遠出はやめ、もっぱら近辺の鷹取山、三浦富士、武山、大磯丘陵など低山を楽しんでいる。歩けることに感謝の日々である。

二千年前は源氏物語千年紀であった。神奈川県各コミニティはふるって雅楽のつどいや朗読の勉強会を開いた。その一つのわがコミュニティは本文の読解。ところが講師が見つからない。大学で卒論でやっただけの私にお鉢がまわってきた。声が大きくて口の達者なのがよかったのか、深雪アトフラーの登場人物に模した布の花の制作がよかったのか講師を頼まれてから十五年目になった。